

# 三条市水道事業ビジョンの達成状況 (平成30年度)

# 基本方針1 安全で安定した水道水の供給

## 1 水源の確保・保全・水質管理の徹底

平成30年度の啓発活動等実施回数及び水質異常発生回数の実績は右表のとおりであり、いずれも計画を達成しました。

安全で安定した水道水の供給のために、水源の確保と保全、水質管理の徹底は重要です。今後も水道施設のパトロールや水質管理等の徹底に努めます。

区 分	平成30年度		
	計 画	実 績	計画値との差
啓発活動等実施回数(回)	2	2	0
水質異常発生回数(回)	0	0	0

## 2 水道施設の安全管理

水道施設の日常点検を確実にを行い、施設の異常把握に努めました。

# 基本方針2 災害に対する強靱化の推進

## 1 水道施設の耐震化

老朽管の更新に併せて管路の耐震化を進めました。実績は右表のとおりであり、他事業工事関連の布設替工事の繰越し等の理由により計画未達となりました。

区 分	平成30年度		
	計 画	実 績	計画値との差
管路の耐震化率(%)	9.3	8.7	△0.6

## 2 災害時対応の充実・強化

応急給水体制の確保については、前年度に引き続き日本水道協会新潟県支部との応援体制が確立されている中で、水道お客さまセンターとの連携を含め、市の水害対応防災訓練に併せて訓練を実施いたしました。

また、災害復旧体制の確保については、日本水道協会新潟県支部の三条エリア団体（三条市、燕市、加茂市、田上町、釈彦村、三条地域水道用水供給企業団）と資機材の保有情報を共有するなど関係機関との連携を図りました。

# 基本方針 3 健全な事業運営の持続

## 1 計画的な施設の更新

浄配水施設の長寿命化については、企業団からの受水量が増大する令和10年度以降に向けて、大崎浄水場の在り方について更に検討を進めてまいります。

管路更新延長は右表のとおりであり、他事業工事関連の布設替工事の繰越し等の理由により計画未達となりました。

区 分	平成30年度		
	計 画	実 績	計画値との差
管路更新延長 (km)	4.4	3.0	△1.4

## 2 収益の確保

水道事業の収入の根幹を成す水道料金の収納率は、計画値を上回り達成いたしました。今後も未納状態が増加しないよう納付意識を向上させるとともに給水停止を含めた未納対策に取り組んでまいります。

区 分	平成30年度		
	計 画	実 績	計画値との差
収納率 (%)	98.75	98.85	0.10

## 3 経営の効率化

経営の効率化の指標については、すべての項目において、目標を達成いたしました。今後もコスト削減等による経営の効率化を進めるとともに、漏水箇所の早期発見による有収率の向上を図ってまいります。

区 分	平成30年度		
	計 画	実 績	計画値との差
職員数 (人)	30	29	△1
営業収支比率 (%)	98.19	104.83	6.64
経常収支比率 (%)	100.81	107.58	6.77
有収率 (%)	90.31	91.76	1.45

# 基本方針 3 健全な事業運営の持続

## 4 事業運営体制の強化

水道水の安全性等、高度化・多様化するお客様ニーズに対応するため、水道施設管理や設計に係る技術等の研修に参加いたしました。

区 分	平成30年度		
	計 画	実 績	計画値との差
外部研修参加人数（人）	6	6	0

## 投資計画と財政収支計画の達成状況 ①投資計画

### 投資計画

平成30年度は、籠場取水場自家用発電装置起動自動化工事、配水管布設替工事、消火栓設置工事等を実施し、当初計画していた事業を概ね実施できました。なお、配水管布設替工事費については、関連工事の工期延長などにより238,640千円を翌年度に繰り越しました。

(千円)

区 分	平成30年度			
	計 画	実 績	計画値との差	
更新費用	浄水施設費	21,000	3,837	△17,163
	配水管布設替工事費	480,000	534,740	54,740
		501,000	538,577	37,577
その他建設費用	配水施設設置工事費	5,000	0	△5,000
	配水管布設工事費	30,000	0	△30,000
	消火栓施設費	10,000	6,088	△3,912
	固定資産購入費	4,000	1,613	△2,387
		49,000	7,701	△41,299
計	550,000	546,278	△3,722	

### 給水人口と年間有収水量の見込み

給水人口、年間有収水量とも計画値より若干の増となりました。今後は減少傾向が続くと考えられますので、注視してまいります。

区 分	平成30年度		
	計 画	実 績	計画値との差
給水人口(人)	96,940	97,744	804
年間有収水量(千m <sup>3</sup> )	11,809	12,316	507

### 収益的収支

収入においては、料金収入が計画値を上回ったことが寄与し、全体として計画値を上回りました。

支出においては、三条地域水道用水供給企業団の料金改定に伴う受水費の減等により、全体として計画値を下回りました。

以上の結果、純利益は計画値を上回り、計画を達成いたしました。

(千円)

区 分	平成30年度			
	計 画	実 績	計画値との差	
収 入	1 営業収益	1,825,759	1,904,244	78,485
	(1) 料金収入	1,798,762	1,874,153	75,391
	(2) その他	26,997	30,091	3,094
	2 営業外収益	102,031	95,380	△6,651
	(1) 他会計繰入金	1,910	2,040	130
	(2) 長期前受金戻入	59,797	51,422	△8,375
	(3) 水道加入金・その他	40,324	41,918	△1,594
	3 特別利益	0	0	0
	計 (A)	1,927,790	1,999,624	71,834
	支 出	1 営業費用	1,858,190	1,816,495
(1) 人件費		170,781	177,813	7,032
(2) 物件費		1,124,461	1,092,515	△31,946
(うち受水費)		825,251	785,139	△40,112
(3) 減価償却費ほか		563,948	546,167	△17,781
2 営業外費用		53,060	42,165	△10,895
(1) 支払利息		52,130	40,450	△11,680
(2) その他		930	1,715	785
3 特別損失		500	537	37
計 (B)		1,912,750	1,859,197	△53,553
損益 (A) - (B)	15,040	140,427	125,387	
利益剰余金残高	1,104,315	1,296,427	192,112	

## 資本的収支

資本的収支については、建設改良費を238,640千円、企業債を69,500千円、工事負担金を145,981千円それぞれ翌年度に繰り越しました。また、建設改良費が減少したものの、起債対象工事が減少したこと等から、全体の差引不足額は計画値を上回りました。

内部留保資金残高は、平成29年度末時点の1,457,898千円から299,374千円増加しました。

(千円)

区 分		平成30年度		
		計 画	実 績	計画値との差
収	1 企業債等	413,000	292,700	△120,300
	2 出資金・補助金	0	0	0
	3 工事負担金・その他	80,467	130,534	50,067
	計 (A)	493,467	423,234	△70,233
入	1 建設改良費	632,629	602,262	△30,367
	2 企業債償還金	188,823	188,823	0
	3 災害復旧債償還金	2,507	2,507	0
	計 (B)	823,959	793,592	△30,367
差引不足額 (A)－(B)		△330,492	△370,358	△39,866
内部留保資金残高		1,517,500	1,757,272	239,772

## 平成30年度における水道事業ビジョンの総括

主要事業計画に掲げた事業及び数値目標については、概ね計画どおりに実施及び達成することができました。

経営状況については、平成30年の豪雪や夏場の猛暑等の気候変動及び一般住宅、集合住宅の新規件数の増加などに伴う有収水量の増加や三条地域水道用水供給企業団の料金改定に伴い受水費が減少したことなどにより、概ね良好な事業運営ができました。

給水収益については、給水人口の減少に伴い低減傾向にあります。このような状況においても、水道事業はライフラインであり安定した給水を確保していく使命があります。

そのために、水道事業ビジョンで設定した基本理念及び基本方針に基づき、定員適正化等による徹底したコストの削減、漏水防止対策による有収率の向上、老朽配水管等の計画的な更新、施設の長寿命化等を推進してまいります。そして、中・長期的な視点に立ち、経営の効率化と健全な事業経営の持続を図るとともに、安全で安心な水道水の供給に努めてまいります。